

同時進行型



茨城県水戸市立石川中学校
武藤直史

実践テーマ

調整された「かな」の刃の部分拡大提示し、刃の出具合の基準を確認する。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 かなを拡大提示し、どのように木を切削するのか、考える。(関心・意欲を高める)
- 〈展開〉 かな台の「したば」から出ている刃を拡大提示し、刃の出具合を確認する。その後、自分のかなの刃を調整し、練習材の「こば」を切削する。
- 〈まとめ〉 「こば」の切削ができたかワークシートに記入する。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機で、かなの拡大映像を電子黒板に提示し、どのように切削していくのか考える(実物)。 課題「かなの刃を調整し、こば削りをしよう」を提示する。 	●実物(かな)
展開	<ul style="list-style-type: none"> 「したば」から出ている刃の部分拡大提示し、刃の出具合をどこで見るのか確認する(実物)。 調整された刃の出具合を確認し、各自のかなを調整する。切削している動画を見る(動画)。 「こば」の木目を見て、ならい目になるよう材料を固定する。 各自で「こば」を切削する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実物(かな刃の部分拡大) ●切削動画
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分のこば切削が上手にできたか自己評価し、ワークシートに記入する。 	●実物(かな調整後出具合)



実物かな全体拡大画像



実物かな(調整前出具合)拡大画像



実物かな(調整後出具合)拡大画像

生徒の反応・効果

- ・「したば」から出ているかな身の出具合を拡大提示することにより、はっきりとした刃の出具合を確認することができた。
- ・かながけの動画を見ることにより、材料の固定の仕方、かなの持ち方・動かし方等を意識することができた。

活用のポイント

- ・かな身の調整は勘に頼るところも多いので、はっきりとした基準を数値で出し、拡大して提示できると生徒も意識しやすい。
- ・かながけをしている場面をビデオで撮影し、リアルタイムで電子黒板に提示すると、生徒は、正しいかなの持ち方、動かし方等を意識して作業に取り組むことができる。